



# 2025年度 決算説明会

エーザイ株式会社  
2026年5月15日

## 売上収益

- **8,254億円** 前期比 **+4.6%**
- オーガニックビジネスである医薬品事業が大幅に伸長し過去最高の連結売上収益を達成

## 営業利益

- **441億円** 前期比 **-18.8%**
- 医薬品事業による営業利益貢献は大幅に拡大したが、製品導出・売却を見送ったことや、欧州における構造改革費用の計上などが影響し、減益

## 2026年度通期予想

- **売上収益 8,835億円**    **営業利益 700億円**
- 2025年度 通期実績に対して、売上収益は+7%、営業利益は+59%をめざす

## 成長投資

- 事業のさらなる成長に向けた導入品投資を2件実行
- 今後の投資に向けた資金調達の多様化を図り、社債を発行予定

# 2025年度 連結業績(IFRS)

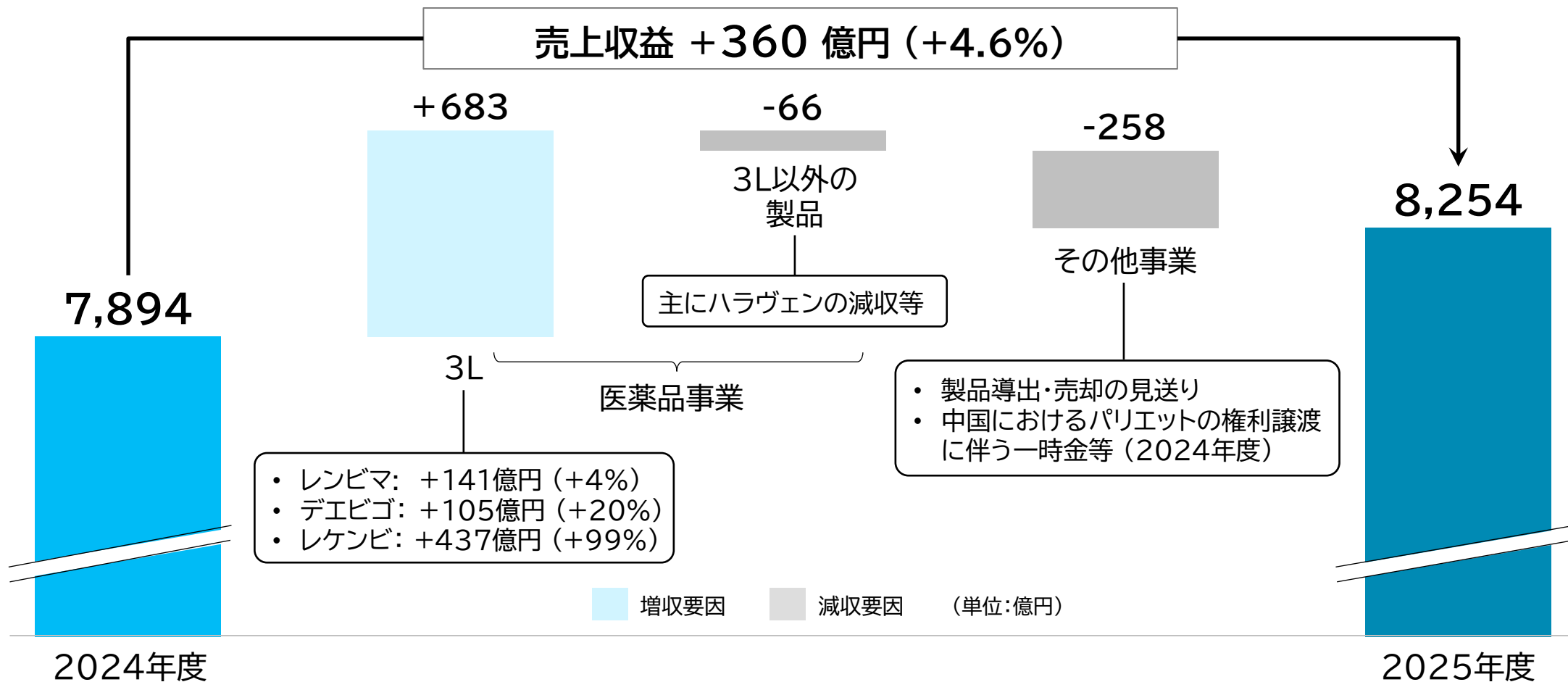
- 連結売上収益が過去最高の8,254億円となり、前期比+5%の増収を達成
- 中長期の企業価値向上を企図し製品導出・売却を見送り、また欧州の構造改革などにより減益となったが、オーガニックビジネスの営業利益貢献が大幅に拡大

(億円)	2024年度 通期実績	2025年度 通期実績	対前期 増減		2025年度	
					通期予想	達成率
売上収益	7,894	8,254	+360	+4.6%	7,900	104.5%
内 医薬品事業 売上収益	7,490	8,108	+617	+8.2%	7,545	107.5%
内 その他事業 売上収益	404	146	-258	-63.8%	355	41.1%
売上原価	1,688	1,912	+224	+13.3%	1,825	104.8%
売上原価率	21.4%	23.2%	+1.8pts	—	23.1%	—
売上総利益	6,206	6,342	+136	+2.2%	6,075	104.4%
研究開発費	1,716	1,587	-130	-7.6%	1,665	95.3%
研究開発費率	21.7%	19.2%	-2.5pts	—	21.1%	—
販売管理費	4,080	4,353	+273	+6.7%	3,960	109.9%
内 レンビマ利益折半費用	1,542	1,582	+40	+2.6%	—	—
その他の損益	134	39	-95	-70.7%	95	41.4%
営業利益	544	441	-102	-18.8%	545	81.0%
営業利益率	6.9%	5.3%	-1.5pts	—	6.9%	—
コア営業利益	238*	501*	+263	+110.7%	—	—
コア営業利益率	3.0%*	6.1%*	+3.1pts	—	—	—
当期利益(親会社所有者帰属)	464	386	-79	-17.0%	415	92.9%
EPS(円)	163.76	136.78	-26.98	-16.5%	147.20	92.9%

\*参考値

# 売上収益の増減要因

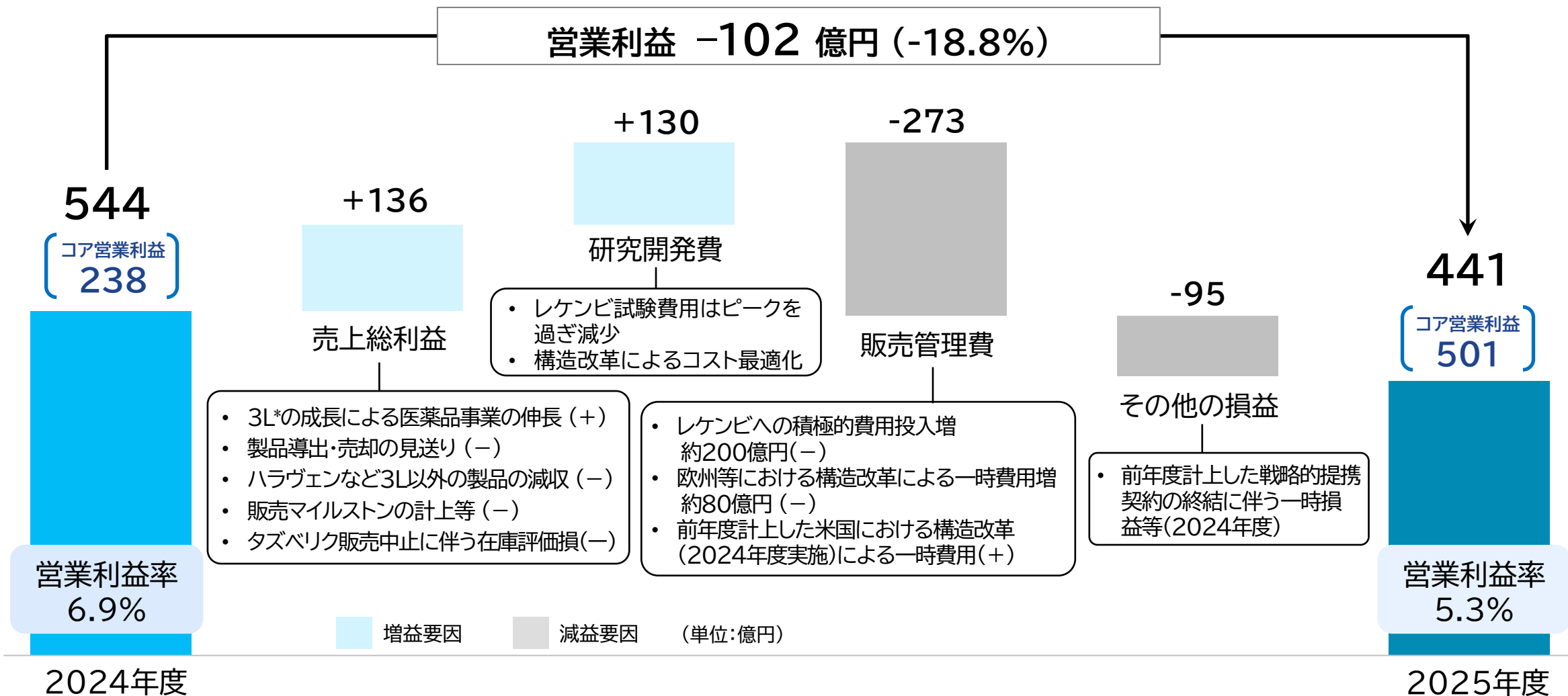
- 3L\*の成長がけん引し、売上収益は8,254億円となり過去最高を達成
- 医薬品事業売上収益は前期比+8%の8,108億円



\* LENVIMA、DAYVIGO(Lemborexant)、LEQEMBI

# 営業利益の増減要因

- 本年度は①製品導出・売却の見送り、②欧州における構造改革費用の計上、③タズベリクの販売中止に伴う在庫評価損などにより減益となったものの、一過性損益を除くコア営業利益は大幅に拡大



\* LENVIMA、DAYVIGO(Lemborexant)、LEQEMBI

# コア営業利益の導入

- 中長期の企業価値向上に連動する指標として、当社の本質的な収益力を明確にするため、「コア営業利益」を算定し、今後開示する
- 「コア営業利益」の定義は、営業利益から将来収益に直接紐づかない一過性の損益項目を除外したものとする  
除外項目： ①製品の導出・売却に関わる損益、②有形固定資産売却損益  
③事業再編に伴う解雇給付費用、④のれんの減損損失  
⑤訴訟等による多額の賠償または和解費用

	2024年度		2025年度		
営業利益	544億円	主な案件	441億円	主な案件	
(除外項目)*1	①	-346億円	中国におけるパリエットの権利譲渡に伴う一時金等*2	-	-
	②	-	-	-28億円	日本における固定資産売却等
	③	+40億円	米国を中心とした解雇給付費用	+87億円	欧州を中心とした解雇給付費用
<b>コア営業利益</b>	<b>238億円*3</b>		<b>501億円*3</b>		

\*1 除外項目④、⑤は2024年度、2025年度とも該当なし \*2 パキスタンとアフガニスタンにおけるメチコバル、ミオナールの権利譲渡、欧州におけるTargretinの権利譲渡などを含む \*3 参考値

# 新資本効率性指標(調整ROIC)の導入

- ROEは指標特性上、一過性損益や経営活動に直接紐付かない自己資本項目(例:為替換算差額)の影響を受けやすい。また、当社は自己資本に占める為替換算差額の割合が約3割と大きく、ROEによる同業他社比較には限界がある
- 今後は成長投資の更なる加速に向け、負債を活用していく方針であることも鑑み、2026年度より、中長期の企業価値向上に連動する新たな指標として、コア営業利益および為替換算差額を控除した自己資本、純有利子負債をベースとした「調整ROIC」を設定し、ROEとあわせて中長期の資本効率性をモニタリングしていく

## 調整ROIC

税引後コア営業利益

=

親会社所有者帰属持分(TA\*除く)+純有利子負債

\* TA = 為替換算差額

(億円)		2025年度 通期実績	
コア営業利益		501	
税引後コア営業利益	A	398	
親会社所有者帰属持分(TA除く)	B	5,888	
純有利子負債	C	0	
<b>調整ROIC</b>	<b>A÷(B+C)</b>	<b>6.8%</b>	<b>中長期的に [8~10%]</b>
当期利益(親会社所有者帰属)	D	386	
親会社所有者帰属持分	E	8,702	
<b>ROE</b>	<b>D÷E</b>	<b>4.4%</b>	<b>中長期的に 8%</b>

# 2026年度 連結業績予想(IFRS)

- レケンビビジネスの収益化、構造改革による効率的な費用構造への進展に伴って、オーガニックビジネスを表すコア営業利益の大幅な拡大を見込む

(億円)	2025年度 通期実績	2026年度 通期予想	対前期 増減	
売上収益	8,254	8,835	+581	+7.0%
内 医薬品事業 売上収益	8,108	8,700	+592	+7.3%
内 その他事業 売上収益	146	135	-11	-7.7%
売上原価	1,912	2,095	+183	+9.6%
売上原価率	23.2%	23.7%	+0.5pts	-
売上総利益	6,342	6,740	+398	+6.3%
研究開発費	1,587	1,640	+53	+3.4%
研究開発費率	19.2%	18.6%	-0.7pts	-
販売管理費	4,353	4,415	+62	+1.4%
その他の損益	39	15	-24	-61.8%
営業利益	441	700	+259	+58.6%
営業利益率	5.3%	7.9%	+2.6pts	-
コア営業利益	501*	700	+199	+39.8%
コア営業利益率	6.1%*	7.9%	+1.9pts	-
当期利益(親会社所有者帰属)	386	523	+137	+35.6%
EPS(円)	136.78	185.00	+48.22	+35.3%
調整ROIC	6.8%	8.7%	+1.9pts	-
ROE	4.4%	5.9%	+1.5pts	-

\*参考値

2025年度期中平均レート 米ドル:150.77円(前期変動率-1.2%)、ユーロ:174.78円(同+6.7%)、英ポンド:202.10円(同+3.8%)、人民元:21.24円(同+0.7%)

2026年度期中平均予想レート 米ドル:153.00円、ユーロ:180.00円、英ポンド:205.00円、人民元:22.50円

- 事業のさらなる成長に向けた導入品投資を実行し、上市に向けた準備が順調に進行
- 今後の戦略投資に向けて、資金調達の多様化を図り社債発行登録を実施

## タレトレクチニブ(E7860)

Nuvation Bio Inc.より導入

### 経済条件

- ・ 契約一時金(Upfront): 5,000万ユーロ (約90億円)
- ・ 薬事・販売マイルストーン: 最大 1億4,500万ユーロ (約261億円)

### 提携概要

- ・ 欧州、中東、カナダ、アジア、オセアニアなどで独占的開発・薬事・商業化権を取得

### 適応症

- ・ ROS1陽性の非小細胞肺癌(NSCLC)  
次世代経口ROS1選択的チロシンキナーゼ阻害剤

### 今後の展開(欧州)

- ・ ROS1陽性の非小細胞肺癌適応(対象患者様数: 約8,000人<sup>\*1</sup>)における申請が2026年3月受理、2027年度の上市を見込む
- ・ レンビマ欧州LOEに向けた積極的な製品導入

## Serplulimab

Shanghai Henlius Biotech, Inc.より導入

### 経済条件

- ・ 契約一時金(Upfront): 75百万米ドル (約116億円)
- ・ 薬事・販売マイルストーン: 最大313百万米ドル (約486億円)

### 提携概要

- ・ 日本における独占的商業化権を取得

### 適応症

- ・ 進展型小細胞肺癌  
独自の結合様式で新たな適応展開が期待される新規PD-1抗体

### 今後の展開(日本)

- ・ 2026年度中に進展型小細胞肺癌適応での最初の承認申請予定
- ・ 日本で開発中または開発計画中の3がん種(進展型小細胞肺癌、大腸がんおよび周術期胃癌)は、Henlius Biotech社主導で開発
- ・ 日本におけるオンコロジーパイプラインの拡充を企図

## 社債発行に向けた準備

- ・ 2026年3月に、2008年以来18年ぶりとなる社債発行登録を実施(発行予定額: 3,000億円、発行予定期間: 2026年4月8日~2028年4月7日)
- ・ 格付会社R&Iより発行登録予備格付「AAマイナス」を取得、今後、市場環境を見ながら適切なタイミング・規模での起債を見込む

# 3L

LEQEMBI Global No.1 AAT<sup>\*1</sup>

DAYVIGO Global No.1 DORA<sup>\*2</sup>  
(Lemborexant)

LENVIMA Global No.1 TKI<sup>\*3</sup>  
in approved cancer indications

抗がん剤: 5がん種7適応を有する経口自社創製マルチキナーゼ阻害剤、単剤療法およびキイトルーダとの併用療法により拡大。発売以来10年、81カ国で約62万人に貢献

売上収益(リージョン別)

(単位: 億円)

■ **全リージョンで伸長**

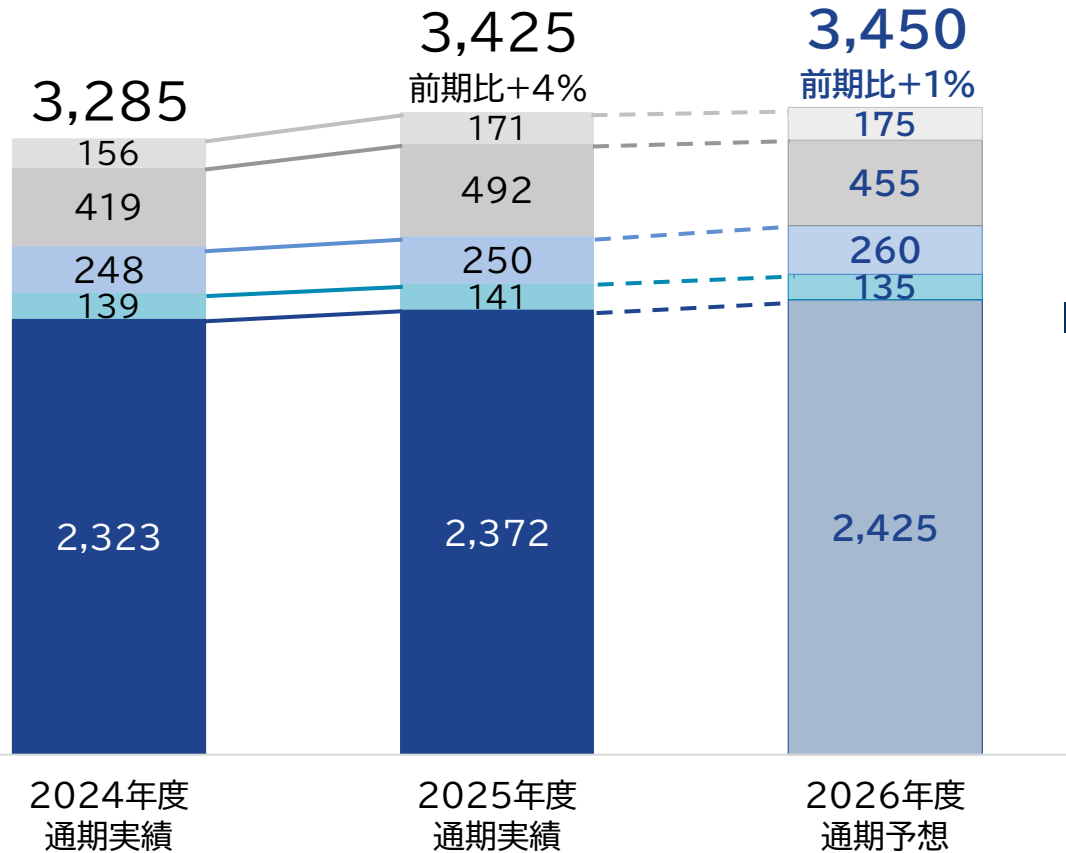
全リージョンで腎細胞がんが牽引、米国は全がん種で成長達成  
腎細胞がん・子宮内膜がん・肝細胞がん・甲状腺がん  
TKI\*1におけるトップシェアを継続

■ **LITESPARK-011\*2による成長拡大 (レンビマ+ウェリレグ)**

カボザンチニブと比較して、PFS\*3とORR\*4が統計学的に有意に改善し、疾患進行または死亡リスクを30%低減  
抗PD-1またはPD-L1療法後の進行性腎細胞がんへの新たな治療法として高い期待:

米国FDA: PDUFAアクションデート 2026年10月4日

日本PMDA: 追加申請 2026年3月

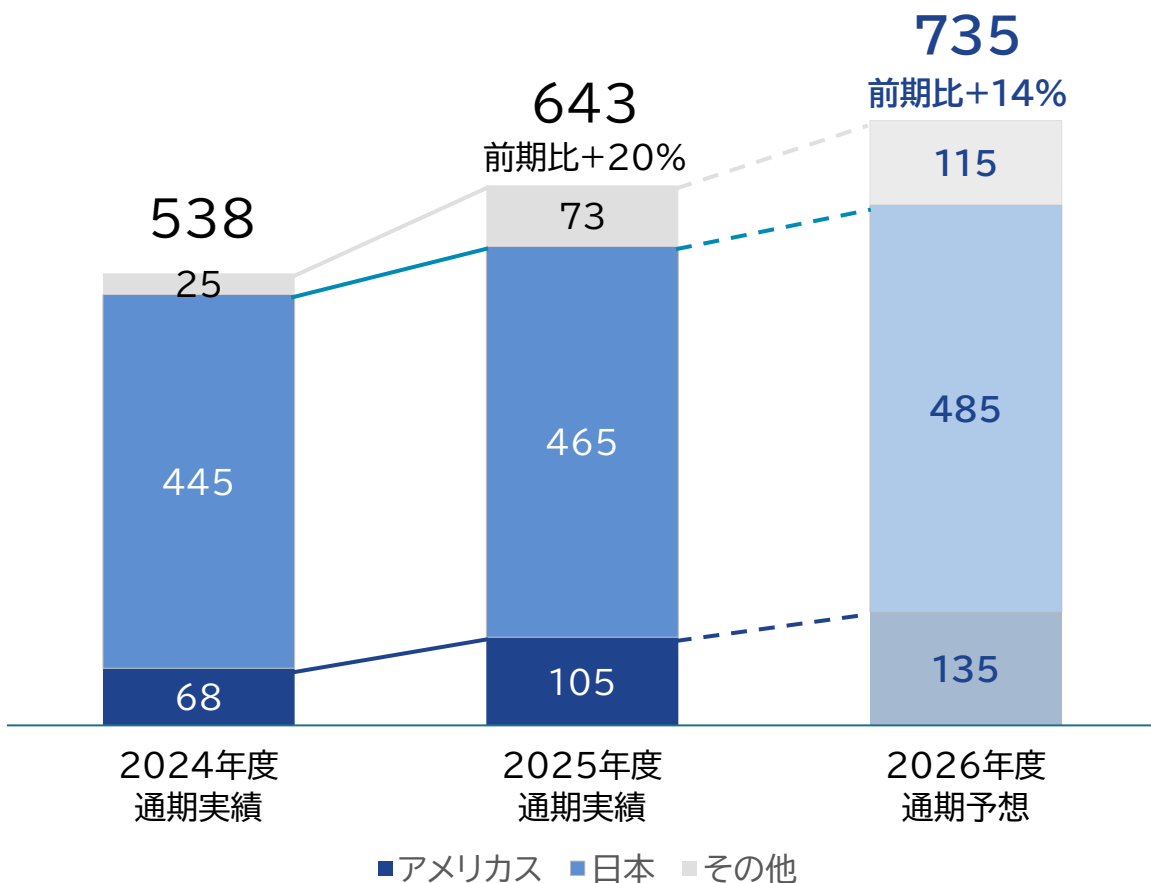


■ アメリカス ■ 日本 ■ 中国 ■ EMEA ■ イーストアジア・グローバルサウス

\*1 チロシンキナーゼ阻害剤 \*2 Merck & Co., Inc., Rahway, NJ, USAとのレンビマのグローバルな共同開発および共同販促を行う戦略的提携に基づく開発。Merckのウェリレグ(一般名: ヘルズチファン)との併用療法。試験はMerckが主導 \*3 Progression-Free Survival 無増悪生存期間 \*4 Objective Response Rate 客観的奏効率

不眠症治療剤:睡眠と覚醒の調整に関与するオレキシンを標的とした自社創製のオレキシン受容体拮抗薬  
日本、米国など27の国と地域で承認取得済

売上収益(リージョン別) (単位:億円)



- 日本は売上、投与患者様数ともにシェア1位\*1を維持  
不眠症未治療の患者様への更なる貢献を通して、  
売上成長を牽引  
『Pokémon Sleep』と提携し眠りの重要性に関する  
啓発活動を開始
- カナダ、中国、タイなどでも順調に成長
- 米国は telehealth\*2による新規取り組みを開始
- 欧州は 2026年度承認申請予定(MHRA\*3,EMA\*4)

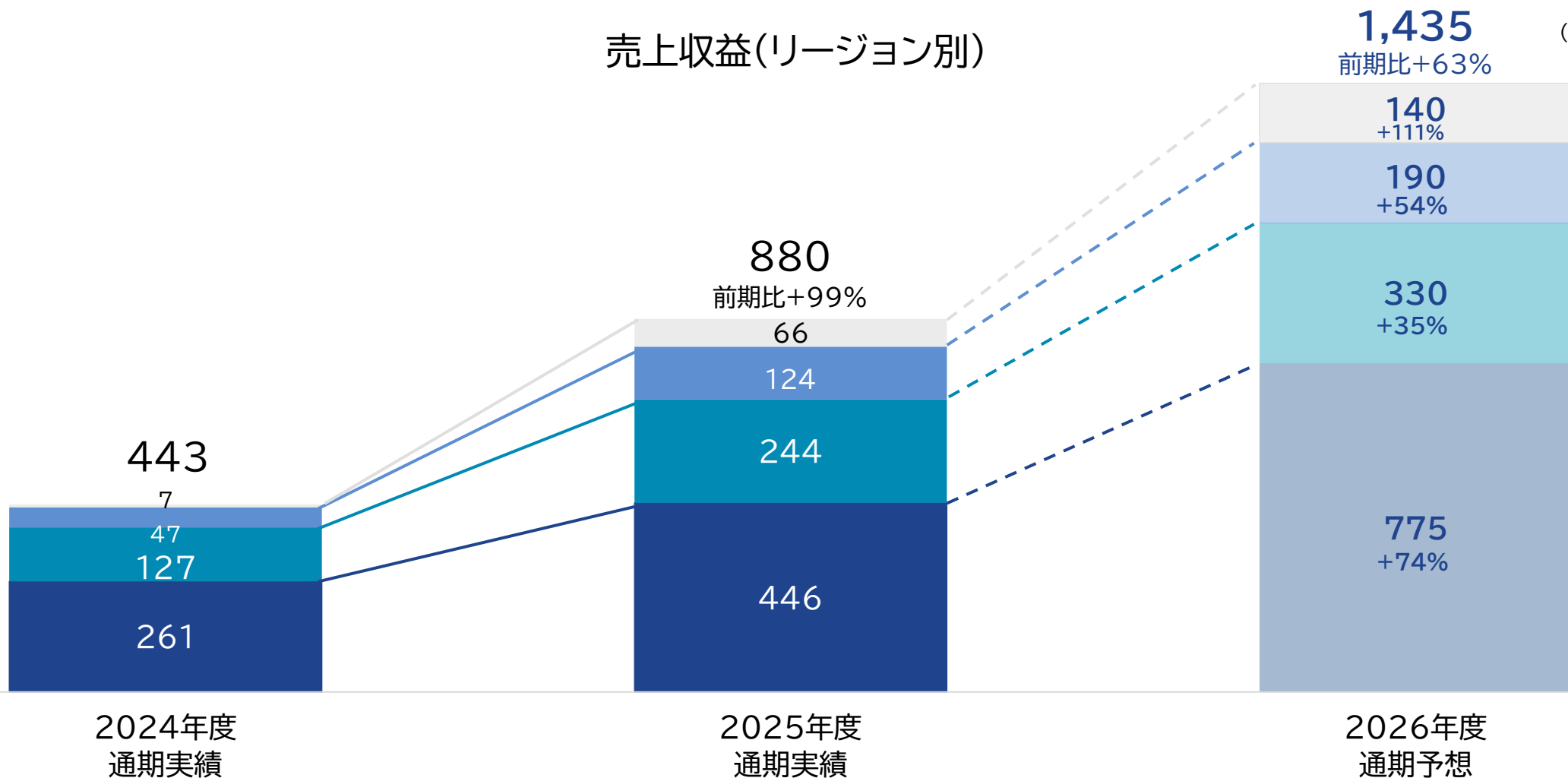
\*1 不眠症の適応症において、JMDC社のデータから社内推計 \*2 デジタル技術を活用し、医師の診療に加え、健康相談や継続的なケア支援を非対面で提供する医療・ヘルスケアサービス  
\*3 Medicines and Healthcare products Regulatory Agency \*4 European Medicines Agency

アルツハイマー病(AD)治療剤:神経毒性を呈することが報告されているAβプロトフィブリルとAβプラークを除去することで、ADの進行を抑制する唯一のAAT\*

早期ADに係る適応で、日本、米国、中国、欧州(EU)など53の国と地域で承認取得済

売上収益(リージョン別)

(単位:億円)

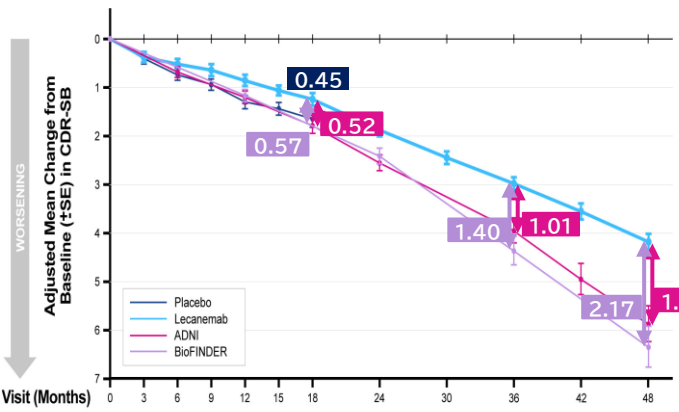


\* Anti-Amyloid Therapy

# 2023年新発売以来、レケンビが取り組んできた命題

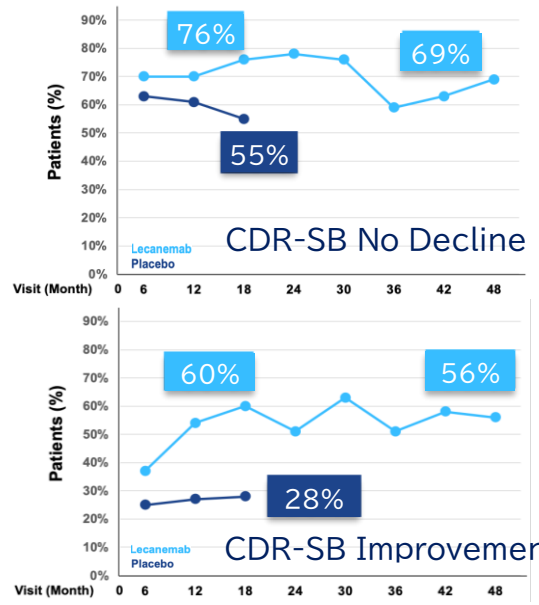
## 「早期治療開始と長期治療継続は現代AD治療体系において 進行を抑制する唯一の治療法である」

Clarity AD OLE 48 months\*1

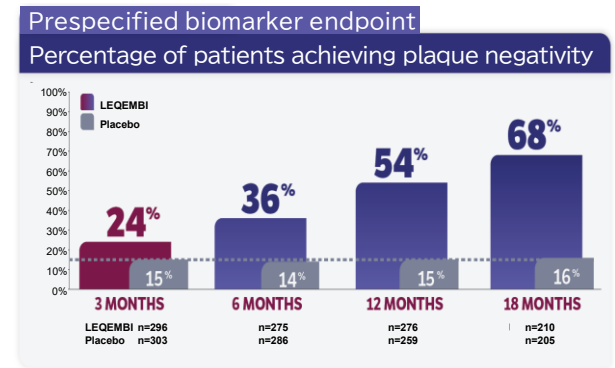


Efficacy (CDR-SB) after long-term treatment of 48 months Comparison with data from ADNI\*2 and BioFINDER\*3

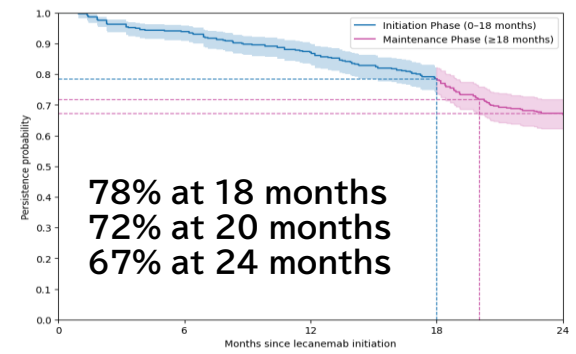
Clarity AD OLE low tau population\*1



Clarity AD Amyloid PET data\*4



Long-Term Persistence in Real-World Use in the United States\*5



東京都健康長寿医療センター\*6  
84% at 18 months

\*1 AAIC, 2025, Developing Topics Session, The Lecanemab Clarity AD Open-Label Extension in Early Alzheimer's Disease: Initial Findings From the 48-Month Analysis, Christopher van Dyck  
 \*2 ADNI観察コホートはClarity ADの参加者にマッチしたpopulation \*3 BioFinderの対象者はStudy 301およびADNIの対象者に類似しているが、(1)すべてのBioFinder対象者はMCIであること、(2)ベースラインのCDR-SBが低いこと、(3) CDR-SBおよび全体CDRが収集されていないため、マッチング基準にADが含まれていないことが異なる \*4 Iwatsubo T, Irizarry M, van Dyck C, Sabbagh M, Bateman R, Cohen S. 2022 Clarity AD CTAD  
 \*5 AD/PD 2026, March 20, 2026, Michael Rosenbloom, Washington Univ., Long-Term Persistence and Patient Characteristics for Lecanemab in Real-World Use in the United States \*6 Amyloid-Related Imaging Abnormalities in Japanese Patients with Alzheimer's Disease Treated with Lecanemab: A Real-World Study Ryosuke Shimasaki, JPAD DOI: <https://doi.org/10.1016/j.tjpad.2026.100562>

# レケンビのみが可能とするAD診断・治療の一挙改革の開始 - BBM<sup>\*1</sup> Confirmatory<sup>\*2</sup> and LEQEMBI IQLIKの登場 -

AD診断・治療パスウェイの律速になる  
診断におけるAβ確定診断と、  
治療におけるインフュージョンの課題が解消される。  
パスウェイはそのスピードとキャパシティの両面から  
根本的に改善され、多くの当事者様が  
より「簡便かつ利便に治療に向かう」ことができる。  
これは革命的である。

# Aβ 確定診断における改革

## — 簡便性 —

臨床診断

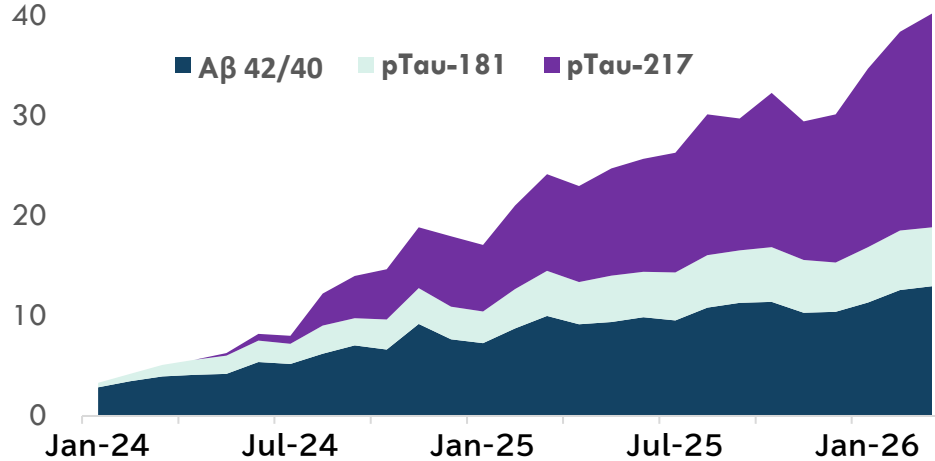
Aβ 診断方法 クライテリア	PET	CSF	BBM* <input checked="" type="checkbox"/>
経済性	高額	中間	安価 <input checked="" type="checkbox"/>
侵襲性	なし	あり	なし <input checked="" type="checkbox"/>
アクセス	可能施設限定	可能施設限定	良好 <input checked="" type="checkbox"/>

レケンビ療法

# BBMによる市場拡大（米国）

(単位:1,000件)

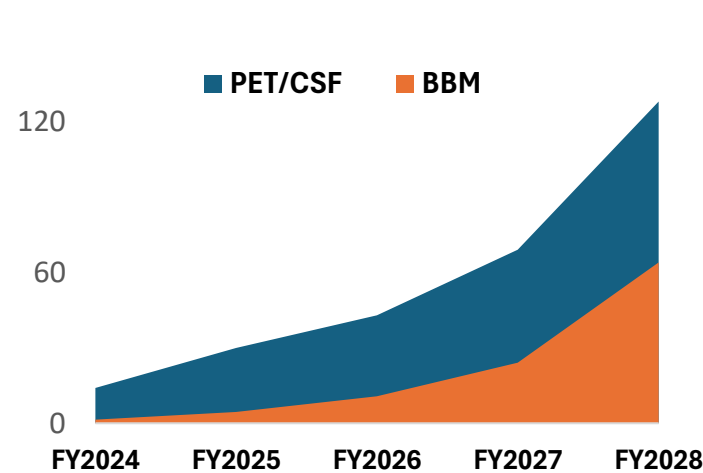
## BBM\*1検査数\*2



- **BBM(Aβ確定診断・トリアージ)検査数の拡大**
  - ・ 過去2年余りで約12倍、2024年1月以降は半年ごとに倍増ペース
- **2025年度:BBMによるAβ確定診断の整備が完了**
  - ・ CMSは抗アミロイド療法レジストリにおいてBBMを正式に追加(Aβ確定診断)
  - ・ AAICガイドラインによる推奨\*3

(単位:1,000件)

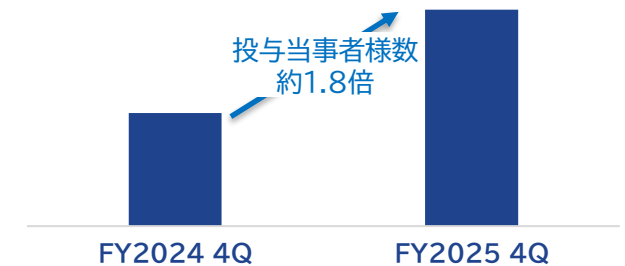
## Aβ確定診断数\*4



- **BBM確定診断の拡大**
  - ・ 2025年度: Aβ確定診断の約15%がBBMで実施
  - ・ 2026年度: 更なるBBM確定診断が承認予定
  - ・ 2028年度: Aβ確定診断の約半数以上でBBMが使用されると推定

## ■ AAT\*5市場

BBMの確定診断・トリアージの活用拡大に加え、DTC\*6や臨床的有用性も寄与し投与当事者様数が昨年度比約1.8倍に拡大\*7, 8



## BBMの進展も寄与する市場成長が本格的に始まっている

\*1 Blood-Based Biomarker \*2 Source: Quest Diagnostics and Lab Corp \*3 Clinical Practice Guideline & Evidence, <https://www.alz.org/professionals/health-systems-medical-professionals/clinical-practice-guidelines-and-evidence> \*4 クレームデータ(SiteRX data)に基づく社内推計 \*5 Anti-Amyloid Therapy \*6 Direct to Consumer \*7 FY24・FY25 4Q比較 \*8 ADVI Claim data

# 簡便性の獲得

A $\beta$  確定診断がBBMにより

大幅に間口を拡大し、

経済性にも優れることは

AD診断における簡便性を飛躍的に向上させる。

# レケンビ治療における改革

## — 利便性 —

### インフュージョン

初期療法(18か月):2週間に1回のインフュージョン

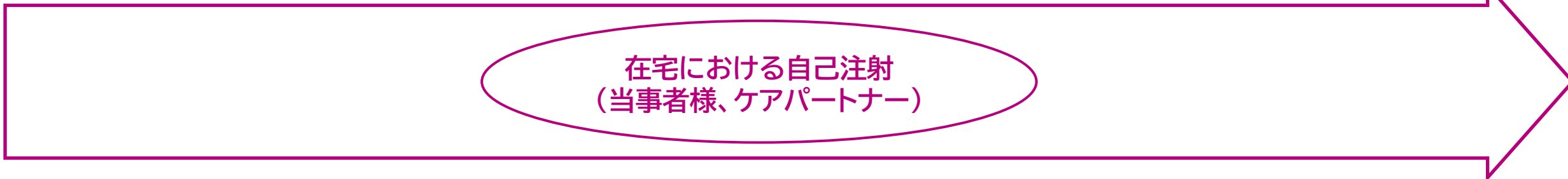
維持療法(18か月以降):4週間に1回のインフュージョン



## SC-AI (IQLIK)\*2

初期療法:1週間に1回 250mg×2本投与  
平均投与時間1本15秒以内

維持療法:1週間に1回 360mg1本投与  
平均投与時間1本15秒以内

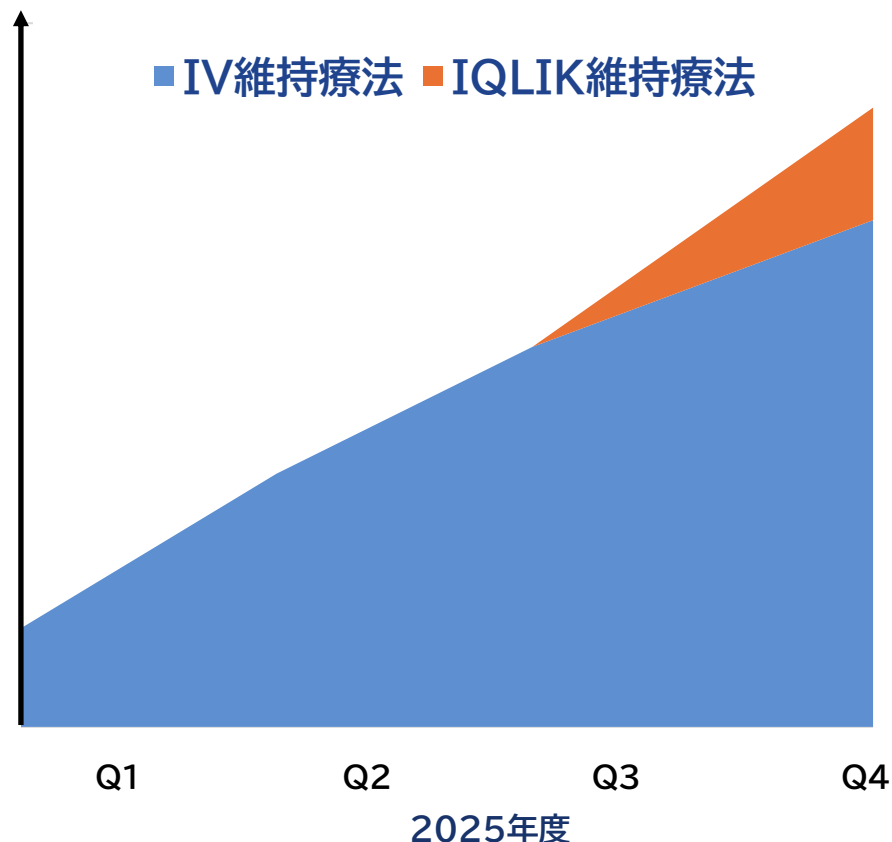


\*1 Infusion-Related Reaction \*2 LEQEMBI IQLIK維持療法は2025年8月に米国にて承認済み。IQLIK初期療法は米国FDAに申請中

# IQLIK維持療法がレケンビの拡大をさらに加速（米国）

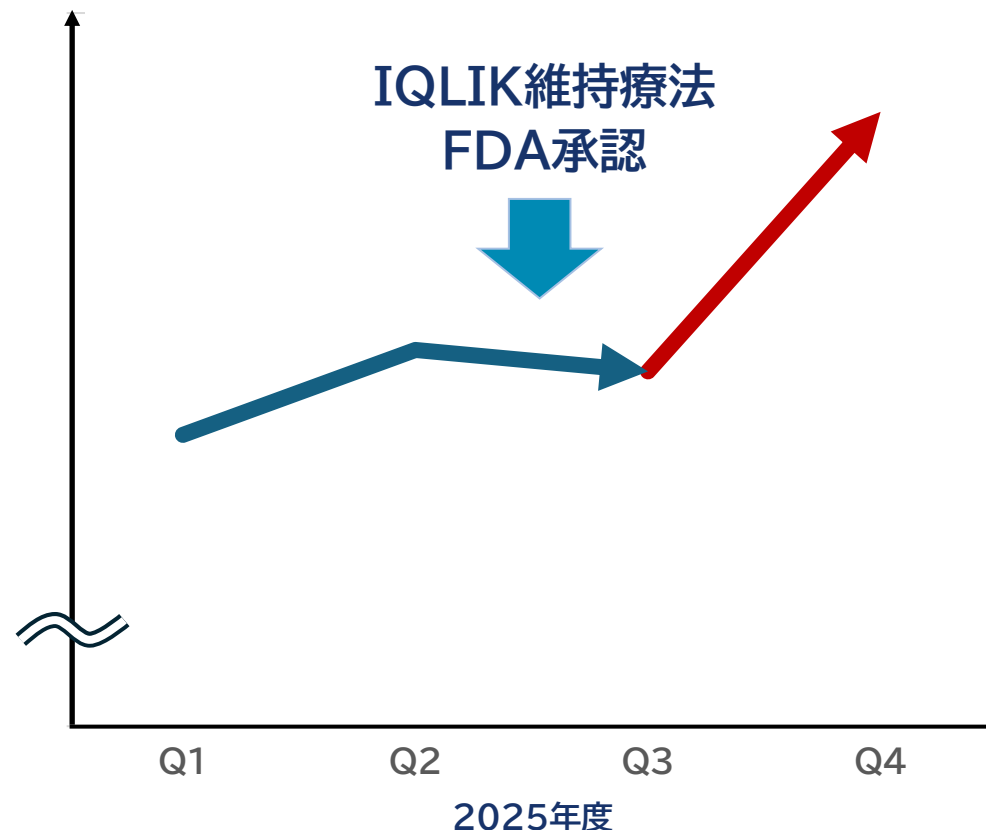
IV・IQLIKは切り替え可能\*1、柔軟な治療オプションを提供

維持療法を受けた当事者様数\*2



IV および IQLIK の双方で  
維持療法を受ける当事者様数が増大

レケンビ IV 新規当事者様数\*3

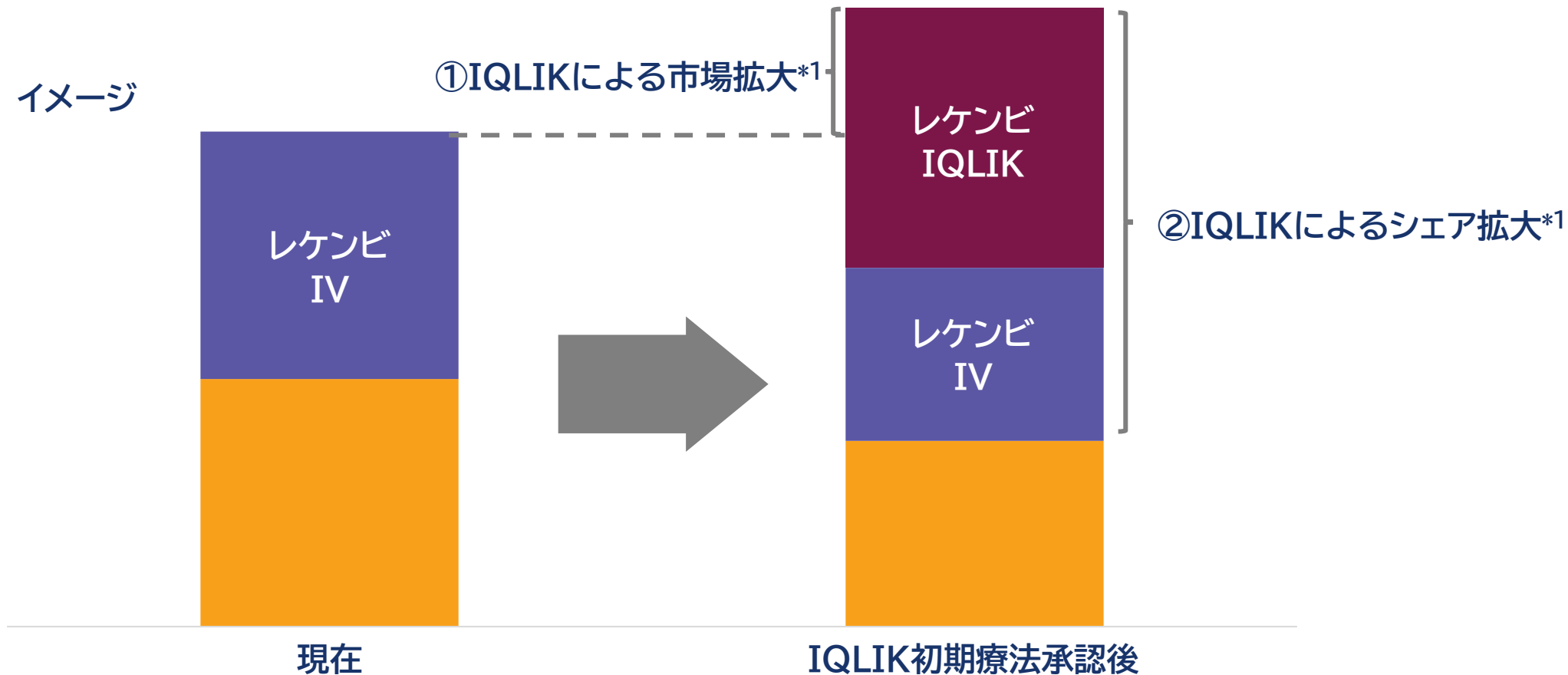


IQLIKがもたらす治療オプションの拡大が  
IVの新規導入当事者様数増加を加速

\*1 米国Prescribing Informationより引用:レケンビによる18カ月の2週に1回の静脈(IV)投与による初期治療後、10mg/kgの4週に1回のIV維持投与、もしくはLEQEMBI IQLIKによる週1回の360mg皮下投与の維持治療に移行可能。維持用量レジメン期間中、患者は投与経路(LEQEMBI静脈内投与またはLEQEMBI IQLIK皮下投与)を切り替えることができる。この切替えは、静脈内投与または皮下投与による直前の維持用量投与の1週間後に開始し、その後は、新たに割り当てられた維持用量レジメンの投与スケジュールに従う \*2 ADVI Claim dataから社内推計 \*3 ADVI Claim data

# IQLIK初期療法によるローンチ初年度のインパクト予想

## -新規当事者様数(推定)-



利便性の発揮により、AAT\*<sup>2</sup>における新規シェアの拡大とレケンビ導入へのハードルの低下による市場拡大を見込む

# レケンビ SC-AI 申請状況

**FDA (US) 維持療法: 2025年8月承認**

**初期療法: 優先審査指定, PDUFA date 2026年8月24日**

**PMDA (JPN) SC-AI 申請 : FY2026 2Q 承認見込み**

**CDE (China) SC-AI 申請 : 優先審査指定, FY2026 4Q 承認見込み**

# 利便性の獲得

IQLIKの維持療法は、2025年8月に米国FDAで承認され、順調に市場導入されている(保険償還率 約85%、導入施設数 約600施設\*1)。

初期療法の承認は2026年8月24日がPDUFAアクションデートとなっている。これによりLEQEMBI治療の全期間がIQLIKによって投与可能となる。IQLIK初期療法が治療開始のハードルを下げることで、これまで治療開始に至らなかった新たな当事者様が治療対象に加わる。

また、利便性の向上による競合上の優位性も高いものとなる。

# レケンビ Value & Access 状況

- 中国：** 新施行 商業健康保険の革新的医薬品リストに収載  
各商業保険会社とのレケンビ治療への補償内容などの協議が  
順次進行：
- HuiMinBao (惠民保):主に地方政府の支援・指導の下、民間保険会社が設計・販売する商業医療保険、レケンビは北京市を含む13保険で収載
  - HaoYiBao (全国好医保):Alipay(支付宝)内の保険プラットフォームにて販売され、高額医療をカバーするために全国どこからでも加入することができる商業医療保険
  - SuiXinBao (广州穗新保):広州市が導入した先端医療費を重点的に補償する商業医療保険
- 計15の商業保険に収載され、さらなるアクセス向上の実現

**EMEA：** ドイツ、英国、スペイン、イタリアなどにおいて  
保険償還交渉中

# パイプライン Key Events

Neurodegeneration ATN*1 Continuum		適応症	ステージ	Key Events
A Amyloid	レケンビ*2 (抗Aβプロトフィブリル抗体)	早期AD (IV 初期・維持療法)	グローバル申請・承認	初期療法承認:53カ国と地域、維持療法承認:7カ国と地域
		早期AD (SC-AI 初期療法)	日米中 申請中 (500mg)	米国PDUFA*4:2026年8月
		プレクリニカルAD (AHEAD3-45*5)	フェーズⅢ	トップラインデータ取得:2028年度
T Tau	Etalanelug (E2814) (抗MTBR*6タウ抗体)	DIAD*7 (Tau NexGen*8)	フェーズⅡ/Ⅲ	トップラインデータ取得:2028年度
		sAD*9 (202試験)	フェーズⅡ	トップラインデータ取得:2027年度
N Neuro-degeneration	E2511 (TrkA*10統合シナプス再生剤)	AD	フェーズⅠ	フェーズⅠb 試験準備中
	E2025 (抗EphA4*11抗体)	AD	フェーズⅠ	CSFバイオマーカーデータ取得:2026年度
オレキシンプラットフォーム		適応症	ステージ	Key Events
Lemborexant(デエビゴ)		不眠症	欧州申請準備	欧州申請予定:2026年度
Ledasorexton (E2086) (オレキシン2受容体作動薬)		ナルコレプシー (202試験)	フェーズⅡ (2026年3月開始)	トップラインデータ取得:2026年度
がん領域		適応症	ステージ	Key Events
レンビマ*12 (マルチキナーゼ阻害剤)		進行腎細胞がん LITESPARK-011*13	日米 申請中	米国PDUFA*4:2026年10月 日本承認見込み:2026年度中
タレトレクチニブ*14 (E7860) (ROS1キナーゼ阻害剤)		ROS1陽性 非小細胞肺癌	欧州 申請中	欧州上市見込み:2027年度
Serplulimab*15 (抗PD-1抗体)		進展型小細胞肺癌 大腸がん	日本 フェーズⅡ フェーズⅢ	日本承認申請予定:2026年度 トップラインデータ取得:2027年度
E7386*16 (CBP*17/βカテニン阻害剤)		固形がん(102試験) レンビマとの併用	フェーズⅠb/Ⅱ	トップラインデータ取得:2026年度

Key Eventsのトップライン想定時期は、2026年4月17日時点のClinicalTrials.govにおける開示情報に基づく。\*1 ATN: Amyloid, Tau, Neurodegeneration \*2 一般名:レカネマブ \*3 Subcutaneous formulation with auto injector \*4 Prescription Drug User Fee Act \*5 Alzheimer's Clinical Trials Consortiumと実施 \*6 Microtubule binding region \*7 Dominantly inherited Alzheimer's disease \*8 Dominantly Inherited Alzheimer Network - Trials Unit が実施するDIADに対する臨床試験 \*9 sporadic AD \*10 tropomyosin receptor kinase \*11 Ephrin receptor A4 \*12 一般名:レンバチニブメシル酸塩 \*13 Merck & Co., Inc., Rahway, NJ, USAとのレンビマのグローバルな共同開発および共同販促を行う戦略的提携に基づく開発。Merckのウエルレグ(一般名:ベルズチファン)との併用療法。試験はMerckが主導。\*14 Nuvation Bio Inc.からの導入品 \*15 Shanghai Henlius Biotech, Inc.からの導入品 \*16 株式会社PRISM BioLabとの共同創出品 \*17 CREB-binding Protein

2025年度は3Lを中心としたオーガニックビジネスの成長により、売上収益が過去最高を更新し、コア営業利益は前年から大幅に伸長した。

一方、営業利益は、中長期の成長を見据え製品導出・売却を見送ったことや、欧州における構造改革費用の計上などにより減益となった。

2026年度は、引き続き3Lを中心とした売上成長により、過去最高の売上収益を計画する。

レケンビにおいてはSC-AI、BBMが整い真の拡大期に入ると共に、

継続した原価コントロールと重点市場への優先的な販管費投入によりビジネスの収益化を図る。

また、過年度に実施した欧米を中心とした構造改革による経営効率の向上を見込む。

研究開発では、レケンビのPreclinical AD、Etalanetug、Ledasorextonなどの、

重点パイプラインへの資源配分を実施しつつ、全体R&D費用をコントロールし、

700億円のコア営業利益を計画する。

あわせて、前向きなファイナンスを実施しオンコロジー領域を中心とする製品導入などの成長投資を推進し、自社創製と導入の両輪によるパイプライン強化を加速する。

これらの取り組みにより、オーガニックビジネスを起点とした収益拡大を実現し、持続的な企業価値向上を図る。

# 參考資料

# 連結損益計算書

(億円)	2024年度		2025年度					2026年度		
	4-3月実績	売上比	4-3月実績	売上比	前期比	予想	前期比	達成率	予想	前期比
売上収益	7,894	100%	8,254	100%	+4.6%	7,900	+0.1%	104.5%	8,835	+7.0%
医薬品事業 売上収益	7,490	94.9%	8,108	98.2%	+8.2%	7,545	+0.7%	107.5%	8,700	+7.3%
その他事業 売上収益	404	5.1%	146	1.8%	-63.8%	355	-12.1%	41.1%	135	-7.7%
売上原価	1,688	21.4%	1,912	23.2%	+13.3%	1,825	+8.1%	104.8%	2,095	+9.6%
売上総利益	6,206	78.6%	6,342	76.8%	+2.2%	6,075	-2.1%	104.4%	6,740	+6.3%
研究開発費	1,716	21.7%	1,587	19.2%	-7.6%	1,665	-3.0%	95.3%	1,640	+3.4%
販売管理費	4,080	51.7%	4,353	52.7%	+6.7%	3,960	-2.9%	109.9%	4,415	+1.4%
その他の損益	134	1.7%	39	0.5%	-70.7%	95	-29.1%	41.4%	15	-61.8%
営業利益	544	6.9%	441	5.3%	-18.8%	545	+0.2%	81.0%	700	+58.6%
コア営業利益(参考情報)	238	3.0%	501	6.1%	+110.7%	—	—	—	700	+39.8%
当期利益(親会社所有者帰属)	464	5.9%	386	4.7%	-17.0%	415	-10.6%	92.9%	523	+35.6%

# セグメント売上収益

(億円)	2024年度		2025年度						2026年度	
	4-3月 売上収益	構成比	4-3月 売上収益	構成比	前期比	予想	前期比	達成率	予想	前期比
医薬品事業計	7,490	94.9%	8,108	98.2%	+8.2%	7,545	+0.7%	107.5%	8,700	+7.3%
日本	2,163	27.4%	2,292	27.8%	+6.0%	2,255	+4.3%	101.7%	2,335	+1.9%
アメリカス	2,783	35.2%	3,004	36.4%	+8.0%	2,730	-1.9%	110.1%	3,370	+12.2%
中国	1,155	14.6%	1,307	15.8%	+13.2%	1,240	+7.3%	105.4%	1,470	+12.4%
EMEA	794	10.1%	815	9.9%	+2.7%	710	-10.6%	114.8%	730	-10.5%
イーストアジア・グローバルサウス	596	7.5%	688	8.3%	+15.6%	610	+2.4%	112.8%	795	+15.5%
その他事業 <sup>*1</sup>	404	5.1%	146	1.8%	-63.8%	355	-12.1%	41.1%	135	-7.7%
連結売上収益	7,894	100%	8,254	100%	+4.6%	7,900	+0.1%	104.5%	8,835	+7.0%

外部顧客に対する売上収益を示す

当社グループは、セグメントを医薬品事業とその他事業に区分しており、医薬品事業を構成する日本、アメリカス(北米)、中国、EMEA(欧州、中東、アフリカ、ロシア、オセアニア)、イーストアジア・グローバルサウス(韓国、台湾、インド、アセアン、中南米、南アフリカ等)の5つの事業セグメントを報告セグメントとしている。

\*1 親会社のライセンス収入及び医薬品原料などに係る事業

# セグメント利益

(億円)	2024年度			2025年度			
	4-3月 セグメント利益	構成比	利益率	4-3月 セグメント利益	構成比	利益率	前期比
医薬品事業計	3,505	92.2%	46.8%	3,673	98.8%	45.3%	+4.8%
日本	717	18.9%	33.2%	730	19.6%	31.8%	+1.8%
アメリカス	1,583	41.6%	56.9%	1,744	46.9%	58.0%	+10.2%
中国	572	15.0%	49.5%	593	16.0%	45.4%	+3.7%
EMEA	359	9.5%	45.3%	304	8.2%	37.3%	-15.4%
イーストアジア・グローバルサウス	274	7.2%	46.0%	302	8.1%	43.9%	+10.5%
その他事業*1	296	7.8%	73.4%	45	1.2%	30.9%	-84.8%
セグメント利益計	3,801	100%	48.2%	3,718	100%	45.0%	-2.2%
研究開発費*2	-1,503	—	—	-1,384	—	—	-8.0%
親会社の本社管理費等*3	-1,754	—	—	-1,893	—	—	+7.9%
連結営業利益	544	—	6.9%	441	—	5.3%	-18.8%

\*1 親会社のライセンス収入及び医薬品原料などに係る事業 \*2 研究開発費は、各報告セグメントに反映したメディカル活動に伴う費用を除いた研究開発費

\*3 パートナーとの戦略的提携に伴う利益及び費用の折半金額を含む。当社グループがMerck & Co., Inc., Rahway, NJ, USAに支払う抗がん剤「レンビマ」の利益折半費用  
(2024年度4-3月期:1,542億円、2025年度4-3月期:1,582億円)

# 主要品目の売上収益

(億円)	2024年度		2025年度						2026年度		
	4-3月実績	売上比	4-3月実績	売上比	前期比	前期比 現地通貨ベース	予想	前期比	達成率	予想	前期比
レンビマ	3,285	100%	3,425	100%	+4.3%	+4.0%	3,120	-5.0%	109.8%	3,450	+0.7%
日本	139	4.2%	141	4.1%	+1.3%	+1.3%	130	-6.4%	108.2%	135	-4.0%
アメリカス	2,323	70.7%	2,372	69.2%	+2.1%	+3.3%	2,175	-6.4%	109.1%	2,425	+2.2%
中国	248	7.5%	250	7.3%	+1.0%	+0.5%	250	+1.0%	100.1%	260	+3.9%
EMEA	419	12.8%	492	14.4%	+17.4%	+9.1%	410	-2.1%	120.0%	455	-7.5%
イーストアジア・グローバルサウス	156	4.8%	171	5.0%	+9.1%	+8.1%	155	-1.0%	110.1%	175	+2.5%
レケンビ	443	100%	880	100%	+98.7%	+99.9%	765	+72.8%	115.0%	1,435	+63.1%
日本	127	28.8%	244	27.7%	+91.3%	+91.3%	240	+88.2%	101.6%	330	+35.3%
アメリカス	261	59.0%	446	50.7%	+70.7%	+72.7%	400	+53.1%	111.5%	775	+73.7%
中国	47	10.6%	124	14.0%	+163.1%	+161.6%	95	+102.4%	130.0%	190	+53.8%
EMEA	3	0.7%	16	1.9%	+419.2%	+394.6%	—	—	—	—	—
イーストアジア・グローバルサウス	4	0.9%	50	5.7%	+1206.5%	+1241.1%	—	—	—	115	+129.9%
デエビゴ	538	100%	643	100%	+19.6%	+19.5%	580	+7.9%	110.8%	735	+14.3%
日本	445	82.8%	465	72.3%	+4.4%	+4.4%	460	+3.4%	101.0%	485	+4.4%
アメリカス	68	12.7%	105	16.3%	+53.5%	+54.7%	90	+31.8%	116.5%	135	+28.8%
中国	3	0.5%	27	4.1%	+938.8%	+935.0%	—	—	—	45	+68.9%
EMEA	4	0.7%	13	2.0%	+248.3%	+243.0%	—	—	—	—	—
イーストアジア・グローバルサウス	18	3.4%	34	5.3%	+88.0%	+83.5%	—	—	—	55	+62.4%

# 日本 医薬品事業の業績

(億円)	2024年度		2025年度					2026年度		
	4-3月実績	売上比	4-3月実績	売上比	前期比	予想	前期比	達成率	予想	前期比
売上収益	2,163	100%	2,292	100%	+6.0%	2,255	+4.3%	101.7%	2,335	+1.9%
医療用医薬品	1,938	89.6%	2,067	90.2%	+6.7%	2,025	+4.5%	102.1%	2,110	+2.1%
デエビゴ	445	20.6%	465	20.3%	+4.4%	460	+3.4%	101.0%	485	+4.4%
レケンビ	127	5.9%	244	10.6%	+91.3%	240	+88.2%	101.6%	330	+35.3%
ジセレカ	148	6.8%	184	8.0%	+24.9%	—	—	—	—	—
レンビマ	139	6.4%	141	6.1%	+1.3%	130	-6.4%	108.2%	135	-4.0%
グーフィス*	78	3.6%	88	3.8%	+12.1%	85	+8.6%	103.2%	90	+2.6%
モビコール*	76	3.5%	87	3.8%	+13.1%	76	-0.6%	113.8%	171	+97.7%
メチコバール	86	4.0%	86	3.7%	+0.2%	86	+0.4%	99.8%	84	-2.1%
フィコンパ	77	3.6%	82	3.6%	+6.5%	90	+16.3%	91.6%	65	-21.1%
エレンタール*	71	3.3%	70	3.1%	-2.0%	65	-9.0%	107.7%	63	-10.0%
エクフィナ	63	2.9%	69	3.0%	+8.4%	67	+5.9%	102.4%	70	+2.0%
リーバクト*	60	2.8%	68	3.0%	+13.3%	60	+0.1%	113.1%	62	-8.6%
ハラヴェン	69	3.2%	29	1.3%	-57.5%	—	—	—	—	—
一般用医薬品等	225	10.4%	225	9.8%	+0.2%	230	+2.3%	97.9%	225	-0.0%
チョコラBBグループ	152	7.0%	159	6.9%	+4.4%	150	-1.5%	105.9%	165	+3.8%
セグメント利益	717	33.2%	730	31.8%	+1.8%	—	—	—	—	—

\* EAファーマの取り扱い製品

# アメリカス 医薬品事業の業績

(億円)	2024年度		2025年度						2026年度		
	4-3月実績	売上比	4-3月実績	売上比	前期比	前期比 現地通貨ベース	予想	前期比	達成率	予想	前期比
売上収益	2,783	100.0%	3,004	100.0%	+8.0%	+9.2%	2,730	-1.9%	110.1%	3,370	+12.2%
レンビマ	2,323	83.5%	2,372	79.0%	+2.1%	+3.3%	2,175	-6.4%	109.1%	2,425	+2.2%
米国	2,296	—	2,342	—	+2.0%		—	—	—	—	—
百万米ドル	1,505	—	1,554	—		+3.2%	—	—	—	—	—
レケンビ	261	9.4%	446	14.8%	+70.7%	+72.7%	400	+53.1%	111.5%	775	+73.7%
米国	261	—	446	—	+70.5%		—	—	—	—	—
百万米ドル	171	—	296	—		+72.6%	—	—	—	—	—
デエビゴ	68	2.5%	105	3.5%	+53.5%	+54.7%	90	+31.8%	116.5%	135	+28.8%
米国	30	—	42	—	+38.1%		—	—	—	—	—
百万米ドル	20	—	28	—		+39.7%	—	—	—	—	—
ハラヴェン	75	2.7%	30	1.0%	-60.0%	-59.6%	—	—	—	—	—
米国	73	—	28	—	-62.1%		—	—	—	—	—
百万米ドル	48	—	18	—		-61.6%	—	—	—	—	—
セグメント利益	1,583	56.9%	1,744	58.0%	+10.2%	+11.2%	—	—	—	—	—

# 中国 医薬品事業の業績

(億円)	2024年度		2025年度						2026年度		
	4-3月実績	売上比	4-3月実績	売上比	前期比	前期比 現地通貨ベース	予想	前期比	達成率	予想	前期比
売上収益	1,155	100%	1,307	100%	+13.2%	+12.5%	1,240	+7.3%	105.4%	1,470	+12.4%
レンビマ	248	21.4%	250	19.1%	+1.0%	+0.5%	250	+1.0%	100.1%	260	+3.9%
メチコバル	115	10.0%	126	9.6%	+9.1%	+8.5%	—	—	—	—	—
メリスロン	142	12.3%	125	9.6%	-11.6%	-12.2%	—	—	—	—	—
レケンビ	47	4.1%	124	9.4%	+163.1%	+161.6%	95	+102.4%	130.0%	190	+53.8%
セルバックス	86	7.4%	99	7.5%	+15.0%	+14.2%	—	—	—	—	—
アリセプト	77	6.7%	88	6.7%	+13.9%	+13.2%	—	—	—	—	—
強力ネオミノファーゲンシー/グリチロン	73	6.3%	79	6.1%	+8.4%	+7.7%	—	—	—	—	—
ミオナール	69	6.0%	75	5.7%	+8.2%	+7.5%	—	—	—	—	—
フィコンパ	42	3.6%	53	4.0%	+26.5%	+25.7%	50	+20.0%	105.4%	—	—
デエビゴ	3	0.2%	27	2.0%	+938.8%	+935.0%	—	—	—	45	+68.9%
ハラヴェン	22	1.9%	14	1.1%	-37.2%	-37.5%	—	—	—	—	—
セグメント利益	572	49.5%	593	45.4%	+3.7%	+2.9%	—	—	—	—	—

# EMEA 医薬品事業の業績

(億円)	2024年度		2025年度						2026年度		
	4-3月実績	売上比	4-3月実績	売上比	前期比	前期比 現地通貨ベース	予想	前期比	達成率	予想	前期比
売上収益	794	100%	815	100%	+2.7%	-3.8%	710	-10.6%	114.8%	730	-10.5%
レンビマ/Kisplyx	419	52.8%	492	60.3%	+17.4%	+9.1%	410	-2.1%	120.0%	455	-7.5%
フィコンパ	157	19.8%	173	21.3%	+10.6%	+3.5%	155	-1.2%	111.9%	—	—
ハラヴェン	87	10.9%	24	2.9%	-72.6%	-74.0%	—	—	—	—	—
レケンビ	3	0.4%	16	2.0%	+419.2%	+394.6%	—	—	—	—	—
デエビゴ	4	0.5%	13	1.6%	+248.3%	+243.0%	—	—	—	—	—
セグメント利益	359	45.3%	304	37.3%	-15.4%	-22.9%	—	—	—	—	—

# イーストアジア・グローバルサウス 医薬品事業の業績

(億円)	2024年度		2025年度						2026年度		
	4-3月実績	売上比	4-3月実績	売上比	前期比	前期比 現地通貨ベース	予想	前期比	達成率	予想	前期比
売上収益	596	100%	688	100%	+15.6%	+15.5%	610	+2.4%	112.8%	795	+15.5%
レンビマ	156	26.3%	171	24.8%	+9.1%	+8.1%	155	-1.0%	110.1%	175	+2.5%
アリセプト	142	23.9%	146	21.2%	+2.7%	+3.8%	—	—	—	—	—
レケンビ	4	0.6%	50	7.3%	+1206.5%	+1241.1%	—	—	—	115	+129.9%
メチコバル	43	7.2%	42	6.1%	-2.8%	-3.6%	—	—	—	—	—
パリエット	42	7.0%	40	5.8%	-5.5%	-5.1%	—	—	—	—	—
ハラヴェン	35	5.9%	35	5.1%	+0.2%	-1.0%	—	—	—	—	—
デエビゴ	18	3.0%	34	4.9%	+88.0%	+83.5%	—	—	—	55	+62.4%
フィコンパ	21	3.5%	23	3.3%	+10.6%	+9.8%	20	-3.5%	114.6%	—	—
セグメント利益	274	46.0%	302	43.9%	+10.5%	+10.6%	—	—	—	—	—

# 将来見通しに関する注意事項

- 本資料中の目標数値はあくまで中期的戦略、めざす方向性、ビジョン等を示すものであり正式な業績予想ではありません。正式な業績予想は東京証券取引所規則に基づく年次決算短信での開示をご参照ください。
- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらの文言は、現在における見込み、予測、リスクを伴う想定、実質的にこれらの文言とは異なる現実的な結論、結果を招き得る不確実性に基くものです。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。リスクや不確実性は、特に製品に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制機関による審査期間や承認取得、国内外の保健関連改革、マネジドケア、健康管理コスト抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制など、新製品開発に付随する課題などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
- また、承認済み製品に関しては、製造およびマーケティングのリスクがあり、需要を満たす製造能力を構築する能力を欠く状況、原材料の入手困難、市場の受容が得られない場合などが含まれますが、これに限定されるものではありません。
- 新しい情報、将来の出来事もしくはその他の事項より、見通し情報に更新もしくは改正が望ましい場合であっても、それを行う意図を有するものではなく、義務を負うものではありません。
- 当社の連結財務諸表は国際会計基準(IFRS)にて開示しています。